

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1171800533		
法人名	社会福祉法人 草加こだま会		
事業所名	グループホーム川柳		
所在地	埼玉県草加市青柳8丁目29-12		
自己評価作成日	令和 3 年 11 月 18 日	評価結果市町村受理日	令和 4 年 3 月 22 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階		
訪問調査日	令和 4年 1月 20日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>明るいスタッフが多く、アットホームな環境の中、安全で安心した生活を送る事ができる。□</p> <p>利用者様一人ひとりの状況を把握し、個別性の質の高いケアを目指している。</p> <p>近くに畑があり、季節の野菜、果物が収穫できる。</p>
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>事業所独自の理念として1、お互いに職務を理解し協調すること。1、常に秩序と品位を保持しなければならぬ。1、利用者様に対して常に親切丁寧に接する。態度には慎重かつ細心の注意を払う。を掲げている。利用者には、自立支援をしながらできることはやってもらい、できないことは職員全員が周知してケアに努めている。利用者第一に楽しく気持ちよく働ける職場を目指し、古いスタイルから新しいスタイルへとニーズに合わせて取り入れ、改革する姿勢である。職員は利用者とは身内のように接して、何でもありのままに受け止めている。気持ちが通じると自分も笑顔になれるので癒されると言っている。敷地内には保育所が併設されており、コロナ禍以前は毎月交流していた。園児とのふれあいや遊ぶ姿を見て、日頃はあまり笑顔の見られない利用者の表情も和らいでいた。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様の共同生活を利用者様本位のものにし尊厳と自立を支えていける様な側面的支援を行っている。住み慣れた地域の中で生活し、機会があれば、催しに参加させて頂き、地域の一員であることを忘れないようにしている。	利用者に対してできることは自立支援をしながらやってもらっている。職員は利用者ができないことを周知共有し、利用者のADLや状況を見ながら同じ方向性で一人ひとりに合わせたケアを実践している。	理念理解の更なる充実からチームの向上を図りたい。利用者ファーストは勿論のこと、職員への配慮やステップアップも行い、今以上に意見が言い易く、働き易い職場に向けて皆で考えたい。ということに期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	こだま納涼会(お祭り)や年末年始等のイベントを開催し、各町会を通じて地域住民と利用者様及びスタッフとで交流している。	事業所の夏祭りや餅つき大会には近隣の大人や子どもも参加し交流していた。敬老会やクリスマス会にはサックス演奏やマジックのボランティアが訪れ、併設の保育園の園児の訪問は利用者にとっても喜ばれた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の中学校における社会体験事業の受け入れ等を通して認知症への理解を深めていただくようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度開催し、地域包括支援センター職員民生委員を通じて利用者様の状況報告、ヒヤリハットや事故報告書に基づく再発防止に向けての取り組み、人員配置及び体制等についての話し合いを行っている。	コロナ禍ではあるが、中止していた会議の再開を進めている。事業所からは利用者の様子や施設の状況を詳しく報告し、出席者からは服薬チェックや転倒防止対策についてのアドバイスをもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護受給者のご利用が多いため、市の保護担当部門との連絡を密に行っている。また、実地指導で指摘された事項の見直しをはかり、業務改善に努めるとともに、市に実施状況を伝えるようにしている。	市主催のオレンジリング講習会には非番の職員が参加している。社会福祉協議会主催の研修会にもリーダーが参加し、結果を全職員に周知している。行政報告等で市の窓口へ出向き、密に連絡をとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、自施設内で拘束が行われていないかの検証を行っている。また、施設内研修の開催や資料配付等、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	3か月に一度、身体拘束廃止委員会を開催している。身体の拘束だけではなく言葉づかいにも注意し、命令口調や赤ちゃん言葉を廃止して分かりやすく丁寧な言葉で接するようにしている。薬の服用者にはできるだけ減薬のサポートをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場研修を実施するとともに、細心の注意をはらい、小さな事でも見過ごさないようスタッフ同士意識を高めるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在も成年後見人制度を利用している方が居るため、制度の知識は備わっている。必要がある場合、ご家族・関係者と協議する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面だけでは理解が難しいため、分かりやすい言葉を使って説明をするよう心がけている。入居・退去に際しては、特に金銭での不都合が生じないよう十分な説明を行い、納得いただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	一部を除き、ご家族の面会回数が少ないため、ご家族の意見・要望を十分に聞けているとは言い難い状況である。しかし、利用者様の声には常に耳を傾け、要望にこたえるように努めている。	コロナ禍ではリモート面会だったが、現在は検温、消毒をしてもらい、玄関の外での面会を実施している。家族には市の相談窓口を知らせており、意見や要望があれば職員で話し合い迅速に対応する姿勢である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を毎月開催し、意見交換を行っている。利用者様それぞれの抱える課題を職員間で、共有、解決に向けて動く仕組みづくりに取り組んでいる。	月に一度の職員会議において利用者個々の課題の把握やイベント企画について活発な意見が出されている。おやつレクや好きなお弁当の提供等、利用者と一緒に楽しく過ごせる時間を持つ内容が提案されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が個々の職員の状況を把握し、働きやすさややりがいを感じ、日々の常務にあたるよう、代表者に伝わるようにしている。また、理事長との面談も随時行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員にあたってはリーダー管理の元スタッフがマンツーマンで対応している。無資格の職員の資格取得にも取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	草加市のグループホーム事業者連絡会があり、施設同士の横の繋がりを大切にしている。空き情報等も共有し、途切れないサービス提供を実践できるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ストレスや混乱等が起こらないよう、また安心して過ごせるよう、利用者様のお話を傾聴し安心できる場である事を認識してもらう様に心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居後も家族の存在はかけがえのないの無いものである。いつでも会いに来て頂く様をお願いしている。十分にお話を聞き、ニーズ把握に務めるとともに、信頼関係を築く事に注力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者・ごとのコミュニケーションの中から、まず支援できるものは何かを考察する。市町村や地域包括支援センターの力も活用し、介護保険の対象外も視野に入れて考える。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の自立支援を目指し、家事仕事やできる事は、職員と一緒に行うようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人・ご家族を一つのシステムとしてとられ、協力体制を構築するよう努めている。また、近況をこまめに報告する等により、ご家族にも安心して頂けるよう対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活歴の把握に努めているものの、これまでの馴染みの人や場所との関係を継続させる支援には結びついていないと考える。	家族や親戚の来訪があり、知人からは手紙やはがきをもらっている。家族には事業所だよりイベント時の写真や塗り絵を同封して送っている。現在は家族と日帰りのみの外出可で、関係継続に力を入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人ひとりの状況や個性を把握し、その人にあった利用者様同士の関係を構築できるよう務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了(撤去)に関してはご利用頂いたことへの感謝の気持ちを伝えるとともに、それぞれの状況に応じた事後対応に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの状況を把握し、その人らしい生き方が続けられるよう努めている。	職員は利用者の日常会話や表情から感じたことを共有し、注意深く見守っている。生活歴や家族の話にはなかった新たな発見もある。言葉が困難な方にはジェスチャーや大きな文字を書いて知らせている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを基本に、職員間での情報共有や、本人との会話をとおして、これまでの暮らしを把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のバイタルチェック、食事量の変化、運動やレクリエーション等を通して、現在を把握できるよう努めている。また、利用者様との会話、傾聴内容から、ご本人様の希望や不安・不満等を理解できるよう、利用者様との会話を大切にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書を作成し、ご本人・ご家族の同意のもと実施するよう努めているが、職員に十分周知できていない状況である。	利用者のADLや状況変化に合わせたケアを職員間で話し合い見直しをしている。居室担当者、ユニットリーダー、ケアマネージャー、ホーム長によるカンファレンスにて、現状に即したプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の経過記録用紙への記入を徹底し、職員間での情報共有に努めている。また、定期的にリーダーミーティングを行い、計画の見直しに生かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりのニーズに対応し、その人らしく生活できるよう、ストレングスを最大限に引き出す支援を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市役所や 地域包括支援センターに状況を把握して頂き、様々な相談ができるよう、運営推進会議への参加を依頼している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間・365日対応可能な協力医を確保し、体調の急変にも対応できる体制を構築している。家族へのこまめ報告を行っている。	2週に一度、内科の往診を受診している。歯科は近所なので職員が同行している。緊急時は24時間主治医に連絡が可能である。提携薬局が訪れ、個人別に日付と時間入りの薬をケースに入れて管理している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃から利用者様一人ひとりの体調の変化に配慮し介護職での判断が難しい場合は直ぐに協力医療機関の医師に相談し行動している、		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から利用者様の状態把握に努め、入院時には必要な情報を速やかに提供出来る体制づくりを心がけている。退院時には介護サマリーの提供を依頼し、職員間で情報を共有して、退院後の生活に問題が生じないようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の契約段階で、看取りは行っていない事、重篤化した場合は施設を移る事になる旨の説明を行い、ご家族の同意を頂いている。また、近隣の他施設の情報収集に努めている。	家族には入居時に事業所の指針を説明している。点滴等の医療ケアが必要になったり、立位がとれない、入浴が困難になった場合には、医師と家族が話し合い、医師から適切な医療体制のあるところを紹介してもらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置しているが、実地に使用した事はない。全職員が講習等に参加し、救急救命について知識を身につけるとともに、定期的な訓練を行う体制を構築する必要があると考えられる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練を実施している。近隣の消防署から職員に来ていただいたの訓練も行っている。	コロナ禍でも年2回避難訓練を実施している。年1回は消防署も参加していた。緊急連絡網と緊急時マニュアル、1週間分の備品を完備し、消防通報訓練も行っている。日ごろから地域との連携も取れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	男女・年齢にかかわらず、平等に礼節を持って対応するよう心がけ、愛情と優しさのある対応にも配慮している。	個人ファイルは鍵付きの棚に保管しパソコン内の個人情報には厳重に管理され、職員も個人情報について周知している。写真使用については家族の了承を得ている。トイレや入浴時には羞恥心への配慮に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の自己決定を促す取り組みに努め、決め付けることのないように提案したり、ヒントを出し、本人が決められる環境を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様に強要する事はせず、プログラムへの参加の可否を決めていただいている。楽しく、気軽に参加して頂けるよう、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容を2カ月に1回程度利用している。本人の希望、イメージを伝えられるよう支援し、女性の方には軽いメイクやネイルケア等行っている。も		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き等、出来る事は手伝って頂き楽しく安全に食事できるよう配慮している。また、畑で採れる食材を調理する事もある。	食事は専門の調理員が作り皮むきや野菜洗いを利用者も手伝っている。お楽しみランチでは利用者の好みの蕎麦、うどん、お寿司等を提供し、おせち料理、雛あられ、おはぎ等で季節感を味わってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの健康状態、食事量、食べやすい形状等に常に配慮している。特に脱水予防の為、時間を決めて水分摂取をすすめ、一日の水分摂取量も記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	3食後に口腔ケアを行って頂いている。ご自身でできない方は職員が介助して、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限り、トイレで排泄して頂いている。夜間帯、トイレの行くことが難しい利用者様には、夜間用の大パッドを利用いただき、定時の声掛け・確認により、清潔に過ごせるよう支援している。	排泄チェック表により個々のパターンを把握してトイレ誘導をしている。強制にならないように小声でさりげなく声掛けをしている。病院退院後はたとえ失禁しても自立を促し、トイレ排泄の支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日をどうして十分な水分摂取をして頂けるよう配慮している。また、軽体操のプログラムを毎日取り入れ、身体を動かしていただくようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個別対応は困難だが、週2回の入浴、外出・通院の予定がある場合には予め入浴が済ませる様にし清潔保持に努めている。	週2回、午前と午後の時間に入浴している。入浴嫌いの人には「お風呂は温かくてすっきりしますよ」と声掛けを工夫し、原則として同性介助を行っている。季節を感じられる菖蒲湯や柚子湯は利用者には好評である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の気分、体調等を考慮し、安心して休める様にしている。また、夜間帯の室温管理にも配慮し、安眠できるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の薬剤管理指導を導入し、一人ひとりに適した服用ができるようにしている。また、職員が複数回チェックを行うことで、服用漏れを予防するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お誕生日会や季節のイベント等を企画し、職員と利用者様との交流をより深めることで張り合いや喜び、楽しみのある時間を過ごして頂けるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	園庭の散歩や園庭にて売店を開催し、買い物イベント支援を行っている。また、お花見を兼ねたドライブも定期的実施している。	天気が良ければ午前、午後に施設の周りや庭を散歩している。自宅が心配、娘さんの家や知り合いの店を見に行きたい等、希望があれば一緒に車で見に行くこともある。以前は家族との外出も多くあり、身支度を整えて迎えを待っていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身で管理できる方には財布を持って頂いている。買い物をしたい方には職員が同行し、近くのコンビニ等に行くこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をかけたいという方には、自由にかけていただく事で、不安を取り除き、安心できるように配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの装飾は手作りの温かみのある場になるよう工夫している。イベント時の写真を飾る等してフロアにて楽しく、気持ちよく過ごして頂けるよう工夫している。	湿度を見ながら天窓を開けて換気をし、コロナ感染症対策に注意をはらっている。リビングのテーブルは角がなく楕円形で使いやすい。壁には好きな言葉を書いてもらった習字作品や、利用者と一緒に作った季節の飾り物が掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	長椅子を配置し、一人で休んだり、おしゃべりを楽しんだりできるようにしている。また、気の合った利用者様同士で会話できるよう、お席の配置もしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自身の好みの物を持ち込み、置いて頂いている。室温管理等は、本人の希望を聞きつつ職員が行い、快適な状態を保持できるよう努めている。一人で居たい時には強要せず自由に生活して構わないという空気の間を作る様にしている。	クローゼット、電動ベッド、エアコン、照明、カーテンが備品である。TV、テーブル等を持ち込み、趣味の編み物や色鉛筆画を楽しみ、以前の生活を継続してもらっている。自分のおうちとして生活している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの居室前に、一人ひとり異なった名札をかけ、ご自身の部屋がわかりやすい様にしている。トイレや階段等もわかりやすいよう、案内表示を付けている。		